

2005年(平成17年)3月期
決算説明会

知恵をビジネスにする技術・情報企業



長瀬産業株式会社
2005年5月19日



目次

- ◆ 当期決算概況および来期業績見通し
- ◆ 当期の施策と来期に向けた経営方針
- ◆ コーポレートガバナンス
- ◆ トピックス
～ 当社のエレクトロニクス関連事業～

当期の決算概況
2005年3月期

業績の概況(連結)

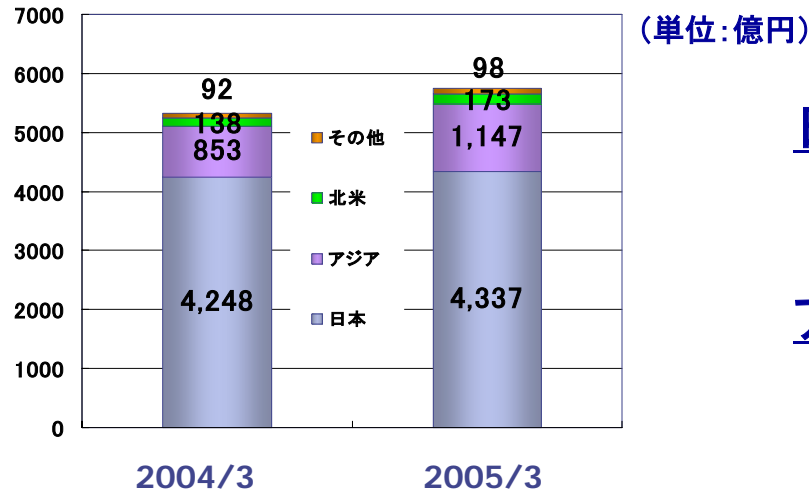
(単位:億円)
(億円未満切捨て表示)

	05/3	04/3	増減	前年比	コメント
売上高	5,756	5,333	+423	108%	海外は大幅増加 国内も増加継続
売上総利益	619	534	+84	116%	売上増加
営業利益	132	102	+30	129%	売上・売上総利益増加 新規連結
経常利益	151	131	+20	116%	持分法投資利益減少
税引前当期 純利益	175	117	+58	150%	特別利益 ・固定資産売却益 20億 ・投資有価証券売却益 15億
当期純利益	103	70	+33	148%	特別損失 ・投資有価証券等評価損 4億 ・減損損失 3億
1株当り 当期純利益	81円00銭	54円69銭	+26円31銭	148%	

所在地セグメント別の売上高と利益

(億円未満切捨て表示)

売上 5,756億円 前年比 423億円増加



所在地セグメント別売上概況

日本 +88億円 (102%)

■単体の売上増加

アジア +293億円 (134%)

(うち中国等東アジア地域 +252億円
アセアン地域 +41億円)

■グレーターチャイナでの販売拡大

■新規連結6社(中国・上海2社含む)

北米 +34億円 (125%)

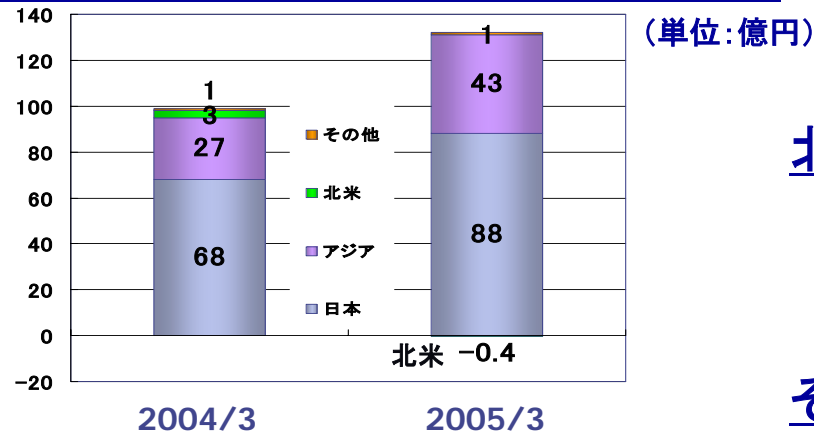
■アメリカでの自動車材料関連樹脂増加

■カナダでの金型事業不振

その他 +6億円 (107%)

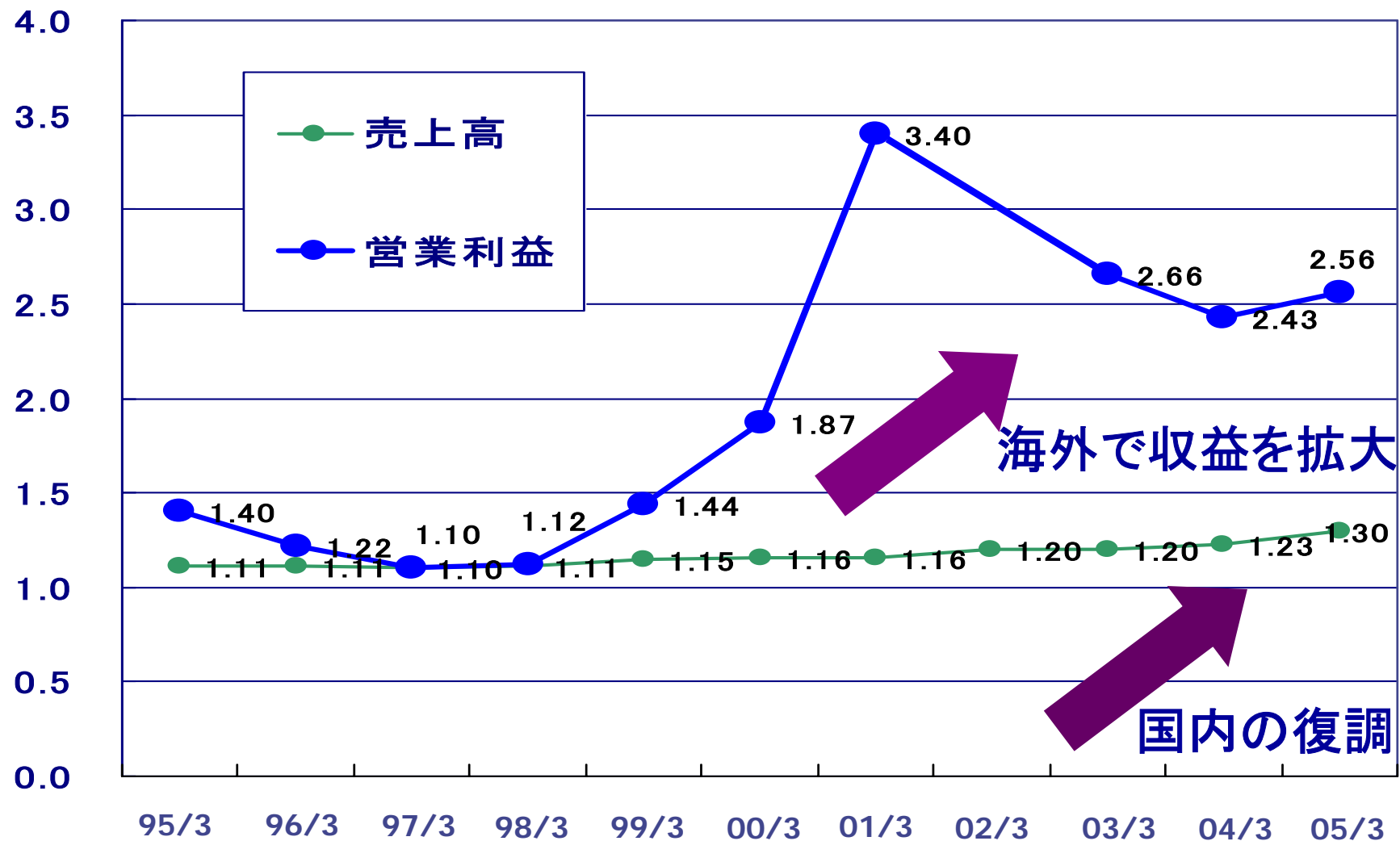
■欧州での化成品増加

営業利益 132億円 前年比 30億円増加



連単倍率の推移

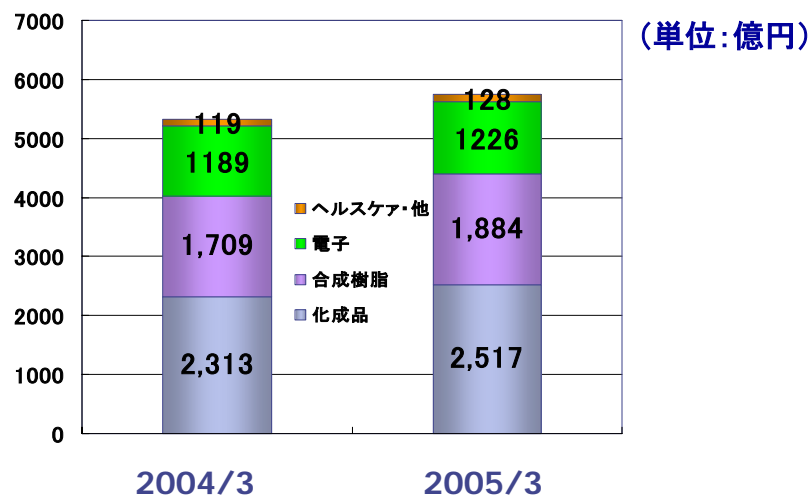
(単位:倍)



事業セグメント別の売上高と利益

(億円未満切捨て表示)

売上 5,756億円 前年比 423億円増加



事業セグメント別売上概況

化成品 +203億円 (109%)

- デジタル機器関連用途ケミカル拡大
- 汎用化学品など素材関連好調

合成樹脂 +174億円 (110%)

- グレーターチャイナ圏拡大継続
- 自動車関連用途好調

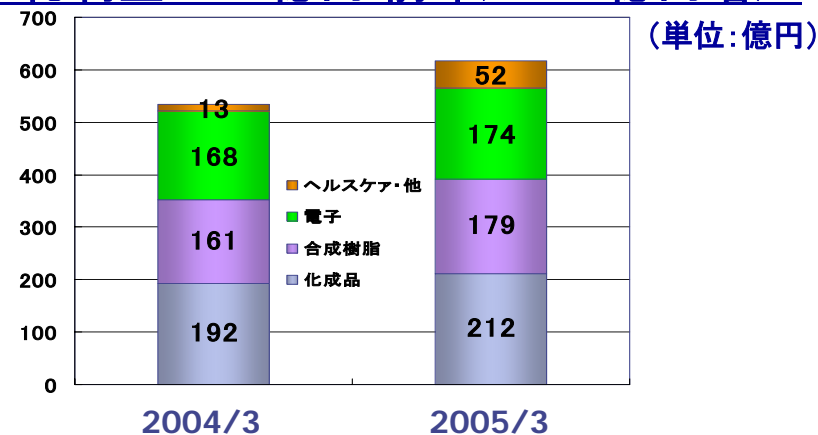
電子 +36億円 (103%)

- 液晶・半導体用薬液、装置好調
- 精密研磨剤増加
- 液晶モジュール・通信機器減少

ヘルスケア・他 +8億円 (107%)

- 化粧品・健康食品微増
- 医療関連、放射線測定関連とも前年並

売上総利益 619億円 前年比 84億円増加

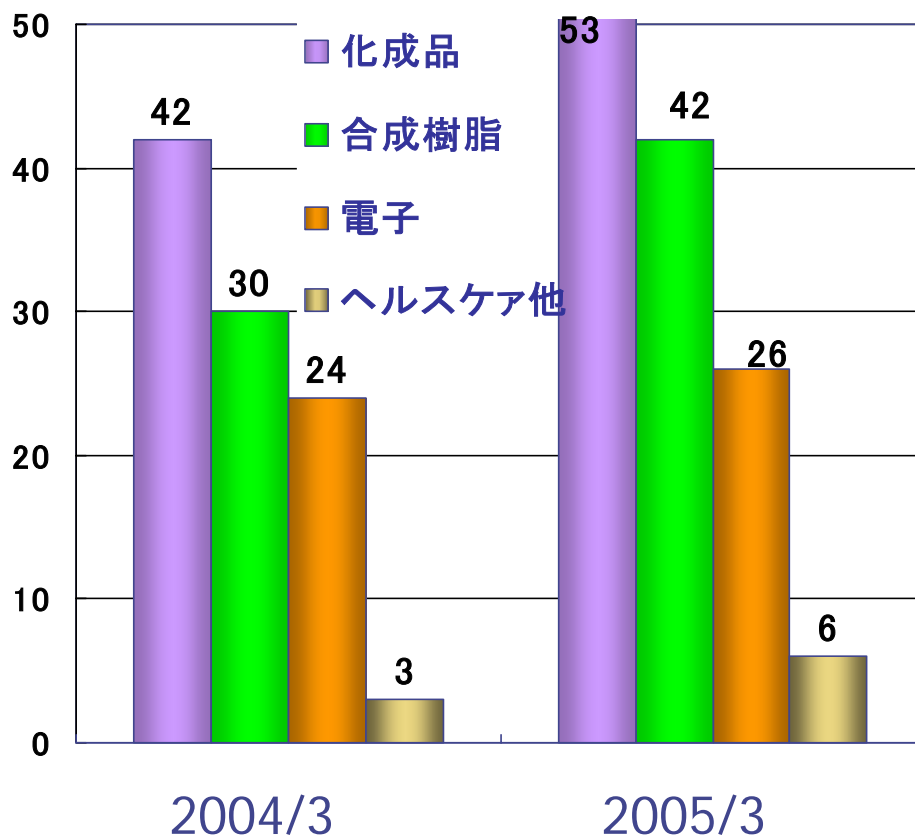


営業利益

(億円未満切捨て表示)

132 億円 前年比129% 30 億円増加

〈セグメント別営業利益〉 (単位: 億円)



営業利益概況

化成品

■ 売上増および営業利益率改善
(1.8%→2.1%)

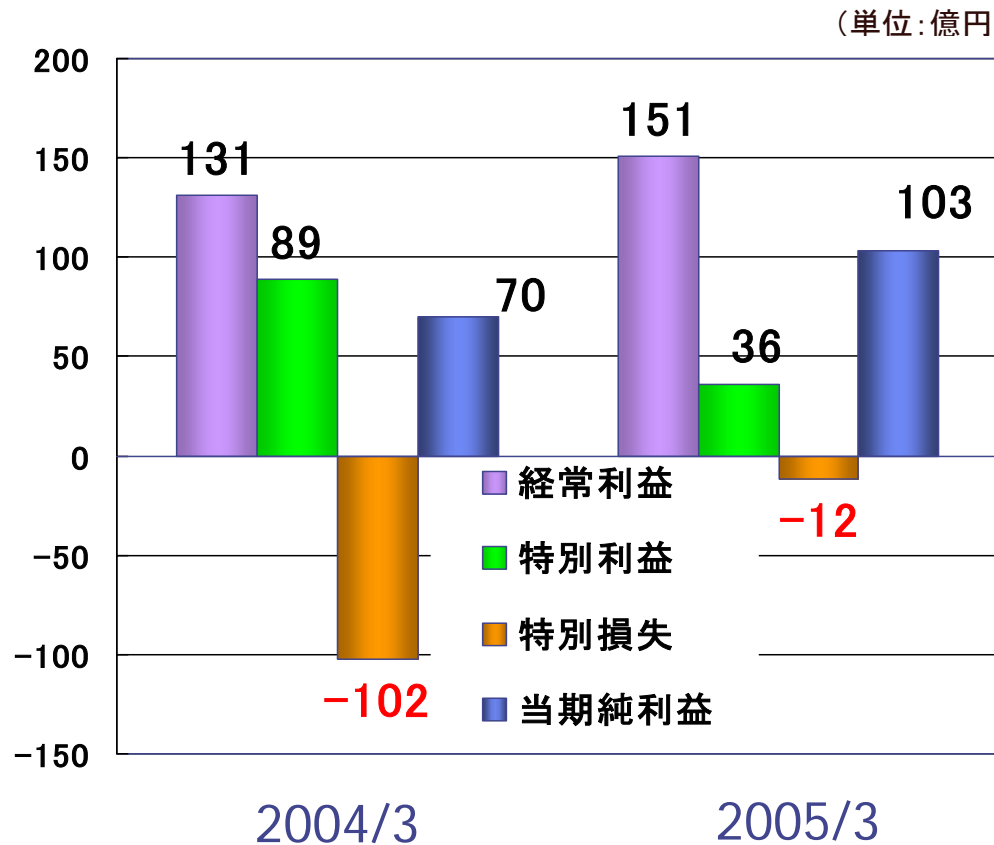
合成樹脂

■ 売上増および営業利益率改善
(1.8%→2.3%)

経常利益・当期純利益

(億円未満切捨て表示)

経常利益 151 億円 前年比116% 20 億円の増加



経常利益 151 億円 + 20 億円

- 営業利益 + 30 億円
- 持分法投資利益の減少 ▲1億円

特別利益 36 億円

- 固定資産売却益 20億円
- 投資有価証券売却益 15億円

特別損失 12 億円

- 投資有価証券・出資金評価損 4億円
- 減損損失(2件) 3億円

当期純利益 103 億円 + 33 億円

主な貸借対照表の増減

売上増加に伴う売掛債権・棚卸資産の増加

(単位: 億円)
(億円未満切捨て表示)

《資産》	05/3	04/3	増減	《負債及び資本》	05/3	04/3	増減
現金及び預金	178	216	▲37	支払手形及び買掛金	1,106	990	+116
受取手形及び売掛金	1,733	1,592	+141	短期借入金	105	76	+28
棚卸資産	363	273	+89	一年内償還予定社債	—	70	▲70
その他流動資産	71	66	+5	その他流動負債	200	177	+23
有形固定資産	296	269	+26	長期借入金	34	17	+17
投資有価証券	658	633	+25	(有利子負債)	(140)	(164)	▲23
その他固定資産	50	56	▲5	その他固定負債	186	171	+14
				少数株主持分	48	41	+6
				株主資本	1,670	1,562	+108
				(うち自己株式)	(▲59)	(▲59)	(0)
				(株主資本比率)	(49.8%)	(50.3%)	
資産合計	3,352	3,107	+244	負債・少数株主持分 資本合計	3,352	3,107	+244

キャッシュフローの状況

税前利益増加、社債の償還

(単位:億円)

	05/3	備考
営業活動による キャッシュ・フロー	17	税前利益 175億円 運転資金 ▲101億円 法人税等の支払額 ▲43億円
投資活動による キャッシュ・フロー	▲14	有価証券売却/取得 19億円 固定資産取得/売却 ▲41億円
財務活動による キャッシュ・フロー	▲51	長期借入 23億円 社債の償還 ▲70億円 配当金の支払 ▲11億円
現金及び 現金同等物の期末残高	172	前年比38億円の減少

主な連結子会社の業績

(単位:百万円)

(百万円未満切捨て表示)

	社名	売上高	前年比	営業利益	前年比	当期利益	前年比
単体	長瀬産業	442,304	102	5,181	123	6,007	112
製造会社	ナガセケムテックス	21,011	99	1,105	108	620	89
	東拓工業	7,377	104	467	91	1,335	240
販売会社	ナガセプラスチック	11,890	107	91	229	52	222
	報映産業	13,368	98	185	—	96	—
	長瀬カラーケミカル	13,729	100	161	617	83	—
海外	ナガセ香港	32,621	110	1,062	145	879	141
	ナガセシンガポール	29,777	96	609	134	617	—
	ナガセタイランド	17,337	118	680	120	511	107

来期の業績見通し
2006年3月期

2006年3月期業績見通し

(単位:億円)
(億円未満切捨て表示)

	2006年3月期 (予想)	2005年3月期 (実績)	前年比 (%)	増減
売上高	6,000	5,756	104	+243
売上総利益	650	619	105	+30
販管費	489	487	100	+1
営業利益	161	132	122	+28
営業外損益	13	19	68	-6
経常利益	174	151	115	+22
当期純利益	108	103	104	+4

※ 為替レートは、US\$1=¥102円として計算しております。

セグメント別の来期業績見通し

(単位:億円)
(億円未満切捨て表示)

	売上高		
	2006年3月期 (予想)	2005年3月期 (実績)	前年比 (%)
化成品	2,600	2,517	103
合成樹脂	1,950	1,884	104
電子	1,320	1,226	108
ヘルスケア・他	130	128	101
合計	6,000	5,756	104

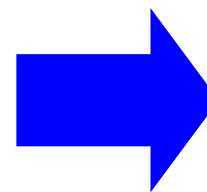
当期の施策と来期に向けた経営方針

「WIT21」の数値目標は前倒しで達成

当初目標値の達成

2005年3月期実績

- ・ 連結売上高 5,756億円
- ・ 連結営業利益 132億円



いずれも「WIT21」における数値目標を1年前倒しで達成

最終年度数値目標の上積み

2006年3月期業績見通し

- ・ 連結売上高 6,000億円 (当初目標値 5,500億円)
- ・ 連結営業利益 161億円 (当初目標値 110億円)

1年前倒しで達成

10年後の姿 (2003年3月当時)

- ・ 連結営業利益 200億円
- ・ 売上高総利益率 15%
- ・ 資本コストを上回る収益の確保

事業改革と新規ビジネスの創造はまだ途半ば

「WIT21」基本戦略

- ① 顧客指向の徹底による差別化の推進
- ② マーケットリーダー事業の育成強化
- ③ グループ機能と独自性を生かしたビジネスの創造

「WIT21」重点戦略分野

エレクトロニクス

ライフサイエンス

自動車関連

海外事業



「WIT21」の定性的な経営戦略は、さらに継続して実践

新規ビジネスの具体例



▲ふらすっどビジネス
(木質複合素材)



▲DVDirect
(<http://direct.nagase.co.jp/home>)



▲ポータブルDVDプレーヤー

「WIT21」重点戦略分野の主な動き

エレクトロニクス

- ・フトリソ用ケミカル/アジア4極体制(日本・韓国・台湾・シンガポール)
- ・中国(華南)での部品加工事業/長瀬国際電子
- ・変性エポキシ事業の中国展開/長瀬精細化工(無錫)
→オリジナル商材による主導権確保へのこだわり

ライフサイエンス

- ・製造機能:ナガセケムテックス(c-GMP設備)、ナガセ医薬品等
- ・研究開発機能:長瀬産業R&Dセンター、大学との共同研究
→商社機能との融合

自動車関連

- ・販売拠点拡充:中国(広州、天津など)追加し、海外全27拠点
- ・提携先拡大:河西工業、クラホウ、東洋クオリティワン、三光合成等
- ・部品設計/金型事業の海外展開(D&D-USA、天津)
→樹脂原料中心から、事業領域を周辺へ拡大

海外事業

- ・強みを発揮できるグレーターチャイナ地域を中心とするアジアに注力
- ・専任かつ常駐のCEO(グレーターチャイナ、アセアン)
- ・グレーターチャイナ地域での売上推移
720億円/02年度→890億円/03年度→1,100億円/04年度

意識改革を目指した社内体制の変更

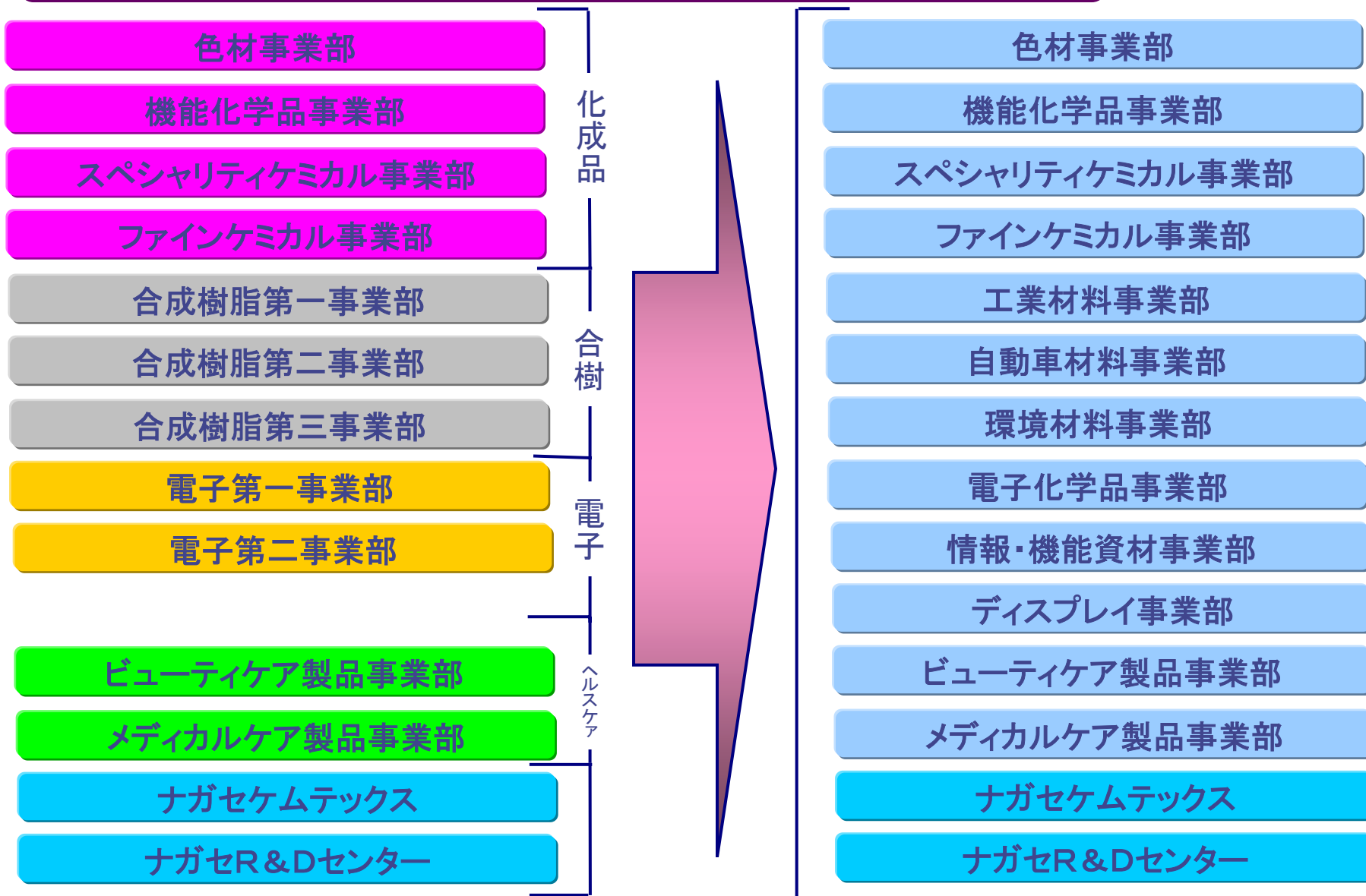
フラット型への体制変更（2004年4月実施）

- ・ 営業13事業部(支店、室)を並列にしたフラット組織
- 重点戦略分野(エレクトロニクス、ライフサイエンス、自動車、海外)を意識した協業体制
- 全体最適に向けた改革(部分最適の排除)
- 業界志向(重点戦略分野の各業界)
- 大型案件の戦略立案

事業部の名称変更と取締役の役割を明確化（2005年4月実施）

- ・ 「商材」を核とした組織体制から、「顧客」「市場」を核とした体制へ
- ・ 社内における「縄張り意識」を徹底して排除し、協業を進展
- ・ 取締役はライン担当を外れ、全社的な見地から事業を企画立案
- ・ この体制変更により、事業創造を育成する土壤に
- ・ 新規事業への参入、リスクマネジメントは取締役会で十分議論

2005年4月からの新体制 (「商材」から「市場・顧客」へ)



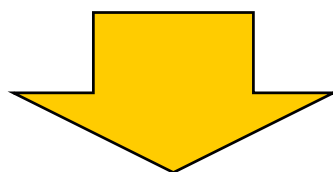
コーポレートガバナンス

株主・投資家への情報開示、透明な経営

監査役の機能強化、経営へのモニタリング

投資案件に対するリスクマネジメントの徹底

執行役員制度の定着、社外取締役の招聘



常に長期的・客観的な視点から企業経営を考える

取締役の役割を明確化し、企業経営を活性化する

トピックス

当社のエレクトロニクス関連事業

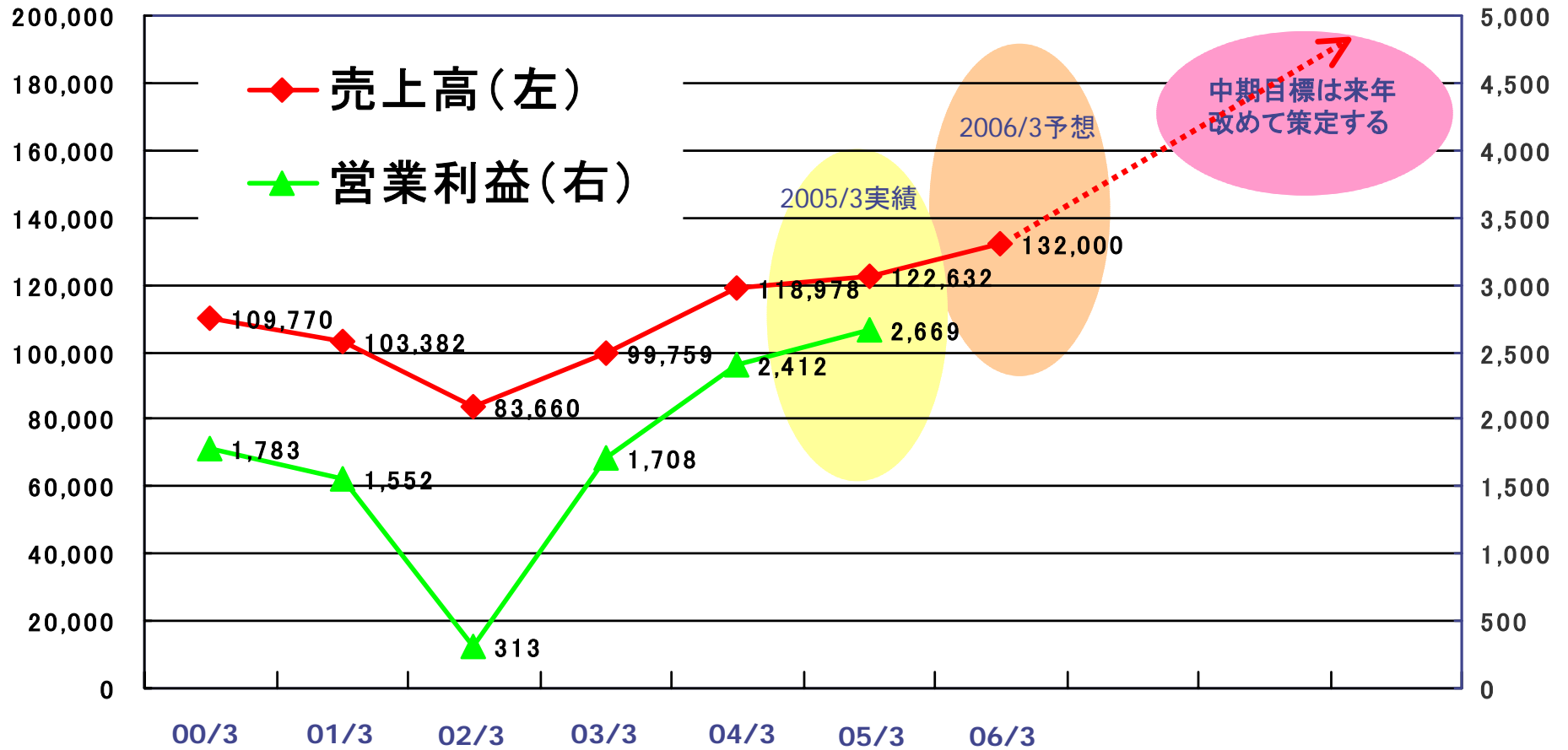
電子事業担当

永島取締役

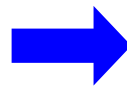
電子セグメントの売上高と営業利益

(単位:百万円)

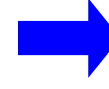
(単位:百万円)



製造ビジネス
の創生

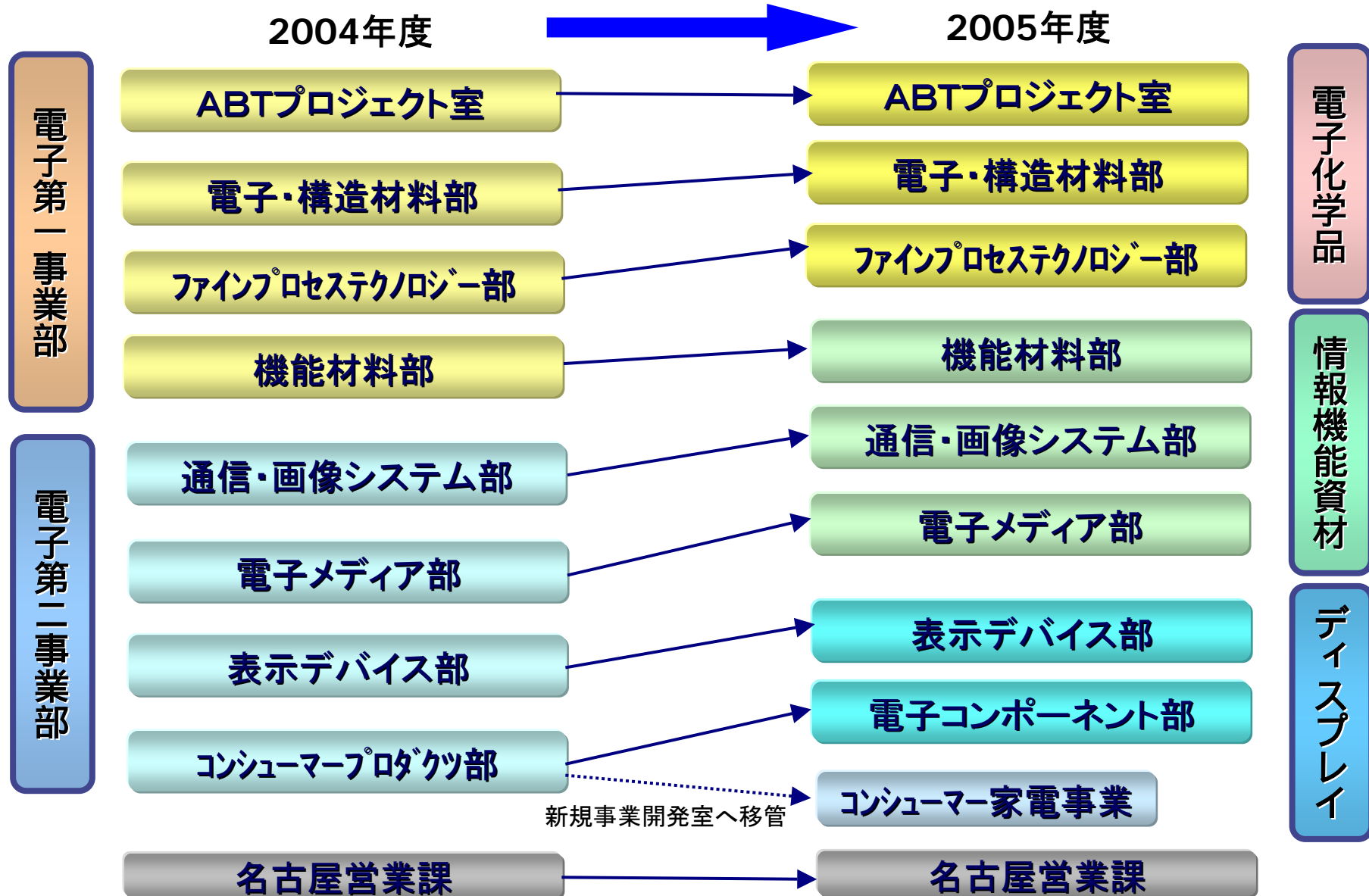


製造ビジネス
の拡大



ケミカルをベースと
した機能融合と新規
ビジネスの創造

全社の機構改革に伴う組織再編



事業領域と主力商材

業 界

商 材

LCD

光学フィルム/ガラス加工

LCDモジュール

薬液供給装置

薬液

フィルム検査装置

半 導 体

エポキシ/薬液

ナガセケムテックス

封止材原料

精密研磨

エポキシ

HD基板

電機・その他

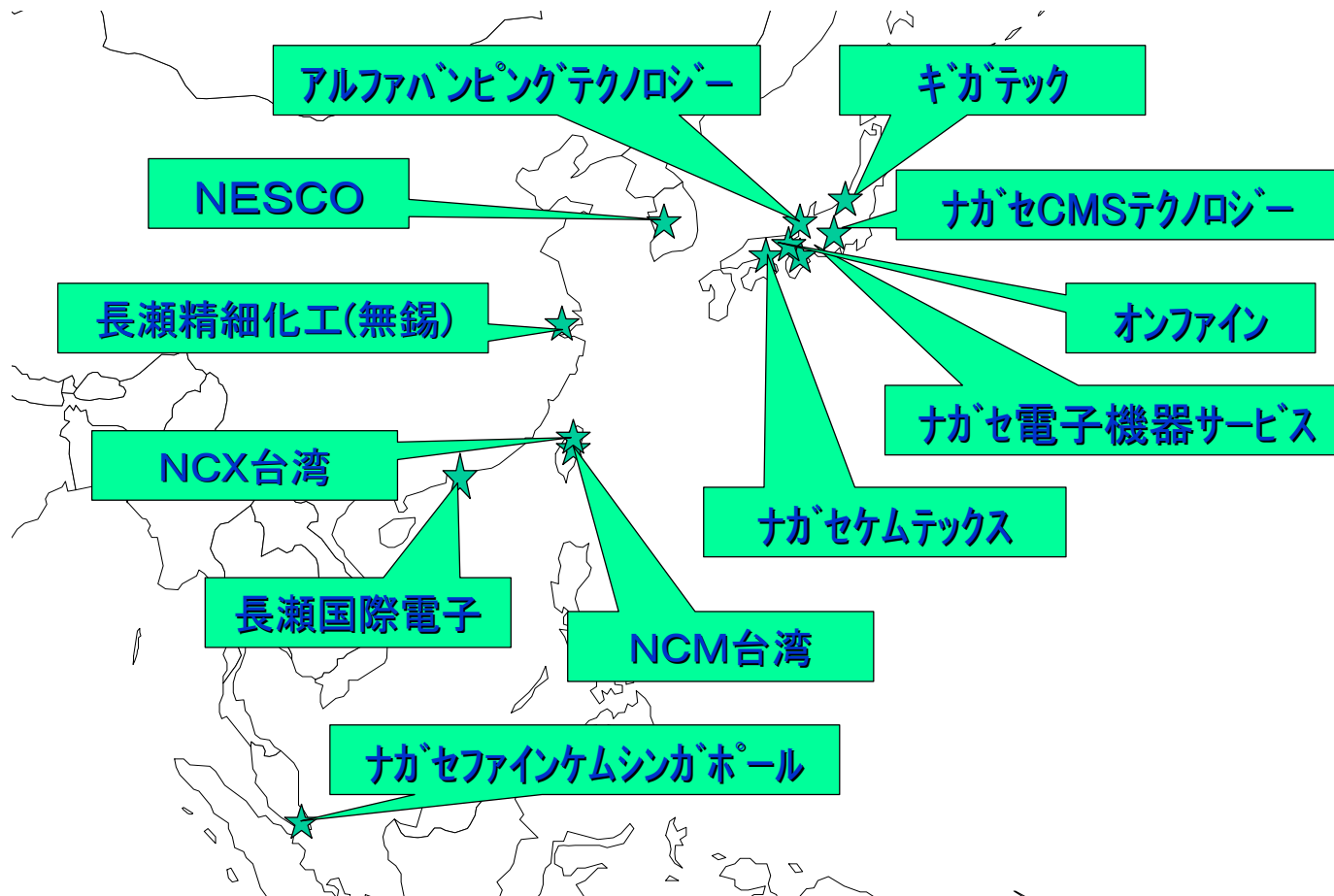
アルミ筐体

通信デバイス

フッ素樹脂/塗料

フィルム検査装置

生産拠点のグローバル展開



グローバル商社としてのネットワークをフル活用できる強み

当社電子事業の主な生産拠点



▲ギガテック



▲ナガセファインケムシンガポール



▲エレクトロニクス用材料や接着剤の生産を行う長瀬精細化工(無錫)有限公司



▲中国華南地区のデバイス生産
(長瀬国際電子)

当社電子事業の特徴と強み

技術系出身者が多く、顧客の技術者と同じ目線でコミュニケーションができる

自社の製造部門で付加価値を高めることができる

マーケティング力

生産管理/品質管理のノウハウ

メーカーの要素技術/生産技術

ナガセオリジナル商材の開発と新規ビジネスを創造

当社の電子事業を支える両輪

連結売上高 約300億円

エポキシ事業

フトリソ用ケミカル事業

CMS装置事業

SCANTECビジネス

電子機器の筐体

光学フィルム
ガラス基板加工事業

オリジナルビジネス

連結売上高 約800億円

光学フィルム

フッ素

研磨材

LCDモジュール

封止材原料

デイーリングビジネス

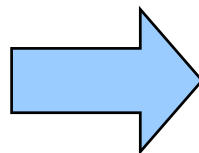
ビジネスモデル確立

コアビジネス拡大強化

今後の事業展開

基本戦略

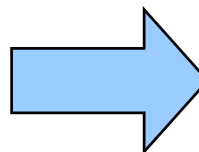
オリジナルビジネスの創造



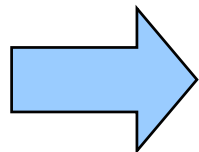
新しい企業ステータスの確立

事業展開

海外を中心とした拡販

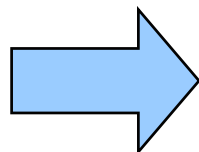
商社機能とネットワークの活用
海外生産のノウハウの活用

注力する事業



デバイスのアセンブリ、材料加工

生産体制の多様化



自社工場、パートナー企業、ファブレス

ディスプレイ事業展開



長瀬国際電子(NIEL)ビジネス展開

- ・顧客に密着(華南地区)、最終使用地に生産拠点設立
- ・パートナーとの緊密な技術提携による品質の安定化
- ・香港・華南地区のコスト優位性を活かした来料加工生産
- ・長瀬グループのASEANでの販売チャンネルの活用



【宝安工場】

液晶パネルアSEMBリ

ガラスカット、液晶注入、封止、
点灯検査、偏光板貼合



【観瀾工場】

光学フィルム加工

貼合、カット、打ち抜き、検査



【福永工場】

バックライトアSEMBリ

成型、組み立て

知恵をビジネスにする技術・情報企業



長瀬産業株式会社

当プレゼンテーション資料には、2005年5月19日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競争状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。